

健康♪外来ニュース

血液型

No. 74 令和7年6月15日

血液型の基礎知識

日本人の血液型は、A40%、O30%、B20%、AB10%で、西日本にはA型、東日本にはB型が多い。

A型では赤血球表面にA抗原、血液中に抗B抗体があります。B型では赤血球にB抗原、血液中に抗A抗体があり、O型では赤血球にA抗原、B抗原が無く、血液中に抗Aと抗Bの抗体があり、AB型では赤血球にA抗原、B抗原があり、血液中に抗Aと抗Bの抗体が無い状態です。

O型の赤血球表面にはH抗原(血液型とは無関係)があり、このH抗原の末端に糖鎖のN-アセチルガラクトサミンが付くとA抗原、ガラクトースが付くとB抗原になります。

血液型と病気との関連を考えるポイントは、①A抗原、B抗原は、各血液型の人々の全身の細胞、臓器、血液中蛋白にも存在する、②A抗原、B抗原は血液型決定以外にも種々の生理的役割を持つ、③細菌やウイルスの表面に類似の糖鎖構造があるので、血液中の抗A抗体や抗B抗体が、細菌やウイルスの感染防御に役立つ、ことです。

血液型と病気

O型:

- ・抗A、抗B抗体が防御効果を発揮するため、免疫力が高く、多くの感染症にかかりにくい。例外的に、ノロウイルスはH抗原が感染の足がかりになるので他の血液型の1.3倍かかりやすい。
- ・von Willebrand因子(VWF。血小板を血管に粘着させて出血を防ぐ。第Ⅷ因子を安定化する)の生成量が少なく、出血時間とAPTT(凝固反応)が延長する。そのため、冠動脈疾患が少ないが、出血しやすい。
- ・COVID-19については、感染率は他の血液型よりも9-18%低く、血栓症の合併が少なく、重症化しにくい。
- ・がんにかかりにくい。理由として、免疫力が高いので腫瘍の増殖を抑え込む、腫瘍増殖作用のあるVWFが少ないことなどが推測される。

A型:

- ・(O型に比べて1.2~2倍以上)冠動脈疾患、脳梗塞、深部静脈血栓症が多い。胃、膵臓、乳房、卵巣、鼻咽頭などのがんリスクが高い。
- ・COVID-19では、肺微小血栓症を起こしやすく、重症化リスクが高い。

B型:

- ・免疫力はO型に次いで高いが、抗B抗体がないため、B型の性質をもつ細菌(大腸菌、サルモネラ、肺炎球菌)に感染しやすい。
- ・2型糖尿病、膵がんのリスクがO型の1.2~2倍高い。膵臓にあるB抗原が慢性炎症を引き起こす可能性が指摘されているが、詳細は不明。
- ・B抗原に似た表面構造を持つインフルエンザAにかかりやすい。

AB型:

- ・免疫力が最も低く、感染症に弱い、自己免疫病やアレルギーが起きにくい。細胞表面にA、B2つの抗原が存在するので、自己と認識されやすく、攻撃されにくい状態(自己免疫寛容)が生じると言われている。
- ・認知症リスクが高い。O型と反対に、VWFが多く第Ⅷ因子活性も高いので、血が固まって脳の微小循環障害を起こしやすいとされている。

血液型と性格

気にする日本人は多いですが、世界的には信じられておらず、傾向はあっても科学的根拠はない(血液型が性格を説明できる割合は0.3%未満)とのデータがあります。2004年、放送倫理・番組向上機構(BPO)から、血液型によって人間の性格が規定されるという見方を助長しないようにとの要望が出て、放送基準第54条(真実を伝え、市民に利益をもたらすものでなければならぬ)に従って、主要メディアでは、差別やいじめの原因となり得る血液型占いを自粛しています。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当: 中嶋